

氏名(本籍・生年月日) 大島 弘美(東京都 昭和47年1月13日)
学位の種類 博士(学術)
学位記番号 乙 第44号
学位授与の日付 平成28年3月20日
学位授与の要件 信州大学学位規程 第5条第2項該当
学位論文題目 An empirical study of formal lessons using visual
resources for seventh graders in the Japanese
inclusive education classroom - Toward next -
generation English learning materials with ICT-
論文審査委員 主査 教授 香山瑞恵 名誉教授 海尻賢二
准教授 新村正明 准教授 カワモト・ポーリン・ナオミ
助教 小形真平
教授 樫山淳雄(東京学芸大学)

論文内容の要旨

本研究は、中学校での正規授業としての英語科教育を対象に、視覚的な情報提示による単語学習の教育効果を実証的に示した論文である。ここでは、小学校での英語必修化の影響やインクルーシブ教育の必要性に伴い、大きな転換期にある我が国の英語科教育における次世代型教材の実現が意識される。まず、研究背景として、これまでのわが国での英語科教育の変遷が概観された上で、近年の英語科教育を取り巻く事象として、小学校3年生から必修化される「英語」の内容とそれへの教育法と平成28年度から義務化されるインクルーシブ教育への対応とが示される。そして、中学校からの単語や文章の綴りが伴う英語科の内容と教育法に関する研究の必要性が述べられ、類似研究との比較から本研究の特徴である1) フォーマルラーニングにおける工夫である事、2) 英語科における発音と意味理解のために視覚的なリソースを利用するインクルーシブ教育の方法論であること、3) 中学生への教育現場での実証的研究であること、4) 次世代の教材実現に向けたソリューション提案であることが示され、本研究の位置付けと新規性が説明される。

本研究で提案する手法は、単語の綴り情報は提示しない。意味を表わすイメージや動画などの視覚的リソースと発音音声の聴覚的リソースの組合せを、繰り返し提示する手法である。この提案手法の教育効果を検証するために、公立中学校1学年の生徒76名を対象に4回の実験的な正規授業を行った。ここでは、視覚的なリソースとしてイメージピクチャを、聴覚的リソースとして担当英語科教員による単語発音を用いた。この実験では、学校での中間試験の点数を基に、被験者を発展クラス(43名)と標準クラス(33名)に2分割した。実験授業1回目と3回目は視覚的リソースを用いる手法で、2回目と4回目は視覚的リソース

を用いない手法で実施した。全ての被験者は4回の授業を全て受講した。ここでの、視覚的リソースを用いない手法とは、従来の語彙学習でも利用されてきたフラッシュカードを用いた指導法である。教師が新しく学ぶ単語について、英語綴りと日本語での意味が表裏に書かれたカードを見せて、発音練習するものである。

実験授業後に実施した発音テストの結果は、視覚的リソースを用いる手法の授業が、視覚的リソースを用いない手法の実験授業よりも統計的に高い結果を示した。そして、実験授業の後、被験者に質問紙調査を行った結果から、1) 標準クラスの生徒は、視覚的リソースを用いる手法を好んでいること、2) 発展クラスは80%の生徒が、標準クラスは90%の生徒が、スペルを覚える際に発音が出来たほうが覚えやすいことがわかった。

これらの実験の成果をふまえ、イメージピクチャを用いることの限界と視覚的リソースの使い分けによる教育効果の可能性、そして正しい発音と意味理解が単語やスペル学習に与える影響について考察した上で、インクルーシブ教育を意識した新しい英語科学習のためのICT教材のイメージを具体的に示し、次世代における英語科学習教材のソリューション提案を行った。